

授業科目	*精神看護学演習				実務家教員担当科目	○	
単位	1.	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	前田 由紀子						
授業概要	精神科病棟に看護師として勤務した経験を活かして、精神科看護に活かすことができるアセスメントやケアの方法を習得することを目指す演習内容にする。精神看護学概論、精神看護方法論で学んだ知識をもとに、精神疾患を持つ人の事例を通して必要な看護を実践するための知識、アセスメント技術、ケアの実践方法を学ぶ。グループワークにおけるディスカッション、個人演習において多角的にアセスメントをおこないケアプランを立案する能力を養う。また、精神障がい者に看護実践をするために必要なコミュニケーション技術についてもグループディスカッション、個人演習をおこない、信頼関係を構築する能力を養う。						
授業形態	講義、演習			授業方法	グループワーク		
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<p>1. 統合失調症の事例を通して看護実践に必要な基礎知識の活用を図ることができる。</p> <p>2. 精神科に入院している患者のセルフケア能力やストレンスをアセスメントし、必要な援助を理解できる。</p> <p>3. 精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を学び、プロセスレコードの分析の視点に沿って考察することができる。</p> <p>4. デイケアの通所者とのかかわりに必要な基礎知識の理解ができる。</p> <p>統合失調症の事例を通して看護実践に必要な基礎知識の活用を図り、精神科入院患者のセルフケア能力をアセスメントし、必要な援助が理解できる。</p> <p>精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を学び、プロセスレコードの分析の視点に沿って考察することができる。</p> <p>デイケアの通所者とのかかわりに必要な基礎知識の理解ができる。</p>						
理想的レベル	標準的なレベルをすべて網羅できたうえで、さらに関心ある精神科看護の課題について積極的、主体的に学びを深めることができる。統合失調症だけではなく気分障害や神経症など精神科入院患者のセルフケア能力をアセスメントし、必要な援助を考える。習得した知識を基にグループでディスカッションを活発に行い、問題意識を高め、根拠に基づく看護を志向する。プロセスレコードで自己を振り返り自己洞察の能力を養う。						
評価方法・評価割合							
評価方法		評価割合（数値）			備考		
試験		60%					
小テスト							
レポート							
発表（口頭、プレゼンテーション）		10%			事例に関する発表		
レポート外の提出物		30%			事例に関する記録物		
その他							
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング							

DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU21322J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
予習：該当部分の予習、復習：該当部分の復習										1	
授業計画											
第1回	テーマ：オリエンテーション、演習で用いる看護理論について ・演習の目標、プログラムの説明後に、リカバリー概念・ストレングスモデルについて解説する。（前田由・矢治）										
第2回	テーマ：演習で用いる看護理論について ・オレム・アンダーウツの理論のセルフケアの枠組みについて解説する。（前田由、矢治）										
第3回	テーマ：精神科におけるケースマネジメント ・事例の情報について解説する。（前田由、矢治）										
第4回	テーマ：精神科におけるケースマネジメント ・オレムアンダーウツの理論に基づいて、②排泄に関連する情報収集とアセスメントをする。（前田由、矢治）										
第5回	テーマ：精神科におけるケースマネジメント ・オレムアンダーウツの理論に基づいて、①空気・水・食物に関連する情報収集とアセスメントをする。（前田由、矢治）										
第6回	テーマ：精神科におけるケースマネジメント ・オレム・アンダーウツの理論を用いて、③個人衛生に関連する情報収集とアセスメントをする。（前田由、矢治）										
第7回	テーマ：精神科におけるケースマネジメント ・オレムアンダーウツの理論に基づいて、④活動と休息に関連する情報収集とアセスメントをする。（前田由、矢治）										
第8回	テーマ：精神科におけるケースマネジメント ・オレム・アンダーウツの理論を用いて、⑤孤独と人とのつきあいに関連する情報収集とアセスメントをする。（前田由、矢治）										
第9回	テーマ：精神科におけるケースマネジメント ・オレム・アンダーウツの理論を用いて、⑥自分を守る力に関連する情報収集とアセスメントをする。（前田由、矢治）										
第10回	テーマ：精神科におけるケースマネジメント ・長期目標、短期目標の立案をする。（前田由、矢治）										
第11回	テーマ：精神科におけるケースマネジメント										

	・看護計画を立案する。(前田由、矢治)
第12回	<p>テーマ：地域精神保健と精神科リハビリテーション看護</p> <p>・精神を病む人の社会参加の状況と看護の役割および社会資源の活用について考える。(前田由、矢治)</p>
第13回	<p>テーマ：看護場面の再構成</p> <p>・ペプロウの理論を用いて、精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を理解する。(前田由、矢治)</p>
第14回	<p>テーマ：看護場面の再構成</p> <p>・ペプロウの理論を用いて、精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を理解する。</p> <p>・プロセスレコード事例①をアセスメントする。(前田由、矢治)</p>
第15回	<p>テーマ：看護場面の再構成</p> <p>・ペプロウの理論を用いて、精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を理解する。</p> <p>・プロセスレコード事例②をアセスメントする。(前田由、矢治)</p>
テキスト	プリントを配布または、クラスルームに提示します。必要時印刷して下さい。
参考図書・教材 ／データベース・ 雑誌等の 紹介	<p>岩崎弥生, 渡邊博幸(編) 新体系看護学全書 精神看護学概論 精神保健 第6版 メヂカルフレンド社</p> <p>岩崎弥生, 渡邊博幸(編) 新体系看護学全書 精神障害をもつ人の看護 第6版メヂカルフレンド社</p> <p>萱間 真美著 リハビリ・退院支援・地域連携のための ストレングスモデル実践活用術 医学書院</p>
課題に対するフィードバックの方法	授業毎に全体を通してコメントしその内容を授業に反映させます。授業はグループワークが中心となります。グループの見解は口頭で発表していただき授業内でコメントします。
学生へのメッセージ・コメント	<p>レポート外の提出物は授業毎に課題を指示しますので必ず提出してください。</p> <p>精神疾患、精神看護学概論、精神看護方法論など既習の知識を再確認して受講してください。</p> <p>精神看護学実習に直接関連する科目ですので、主体的態度で授業に参加してください。</p>